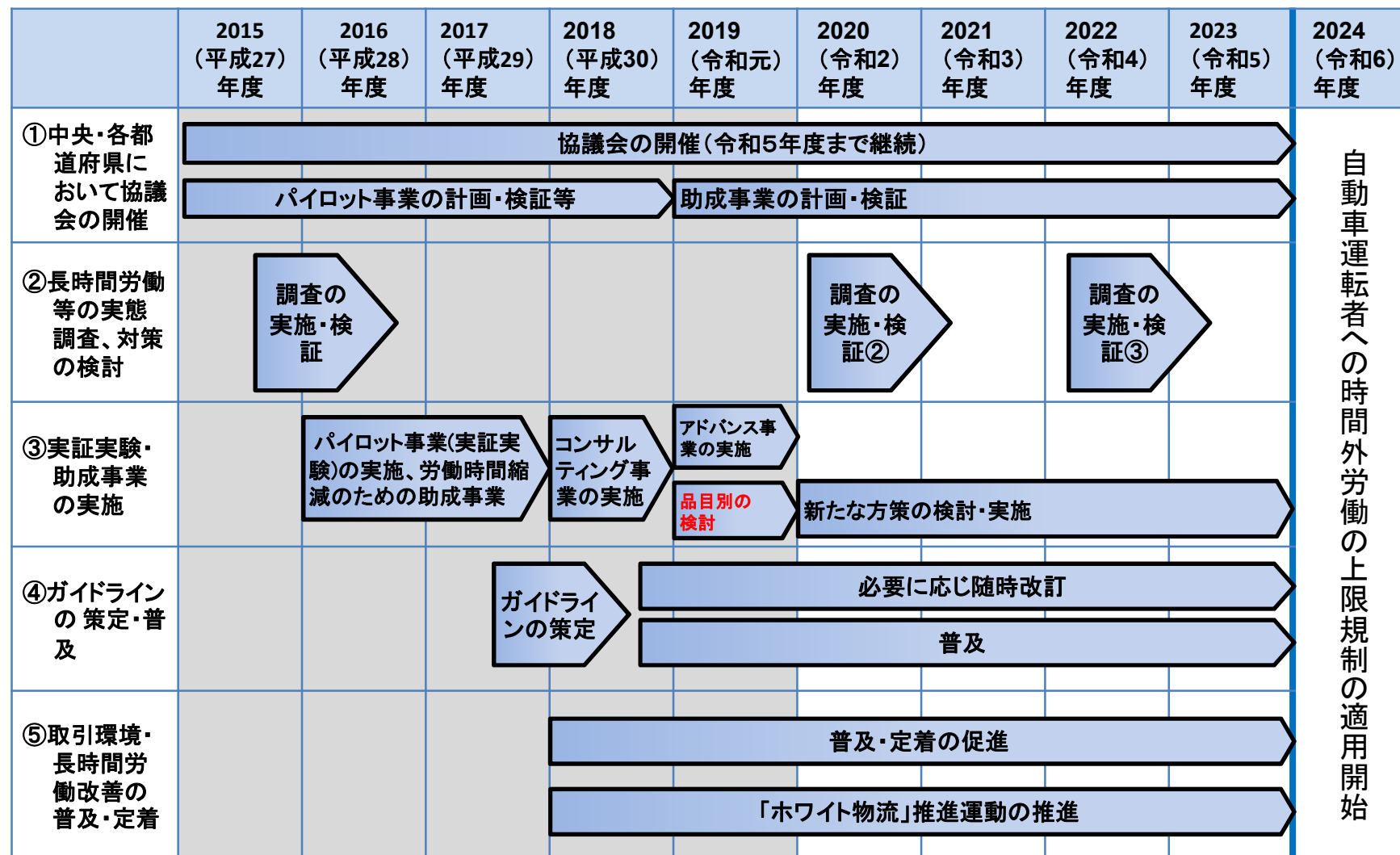


トラック輸送における取引環境・労働時間改善宮城県協議会 令和元年度の実績について

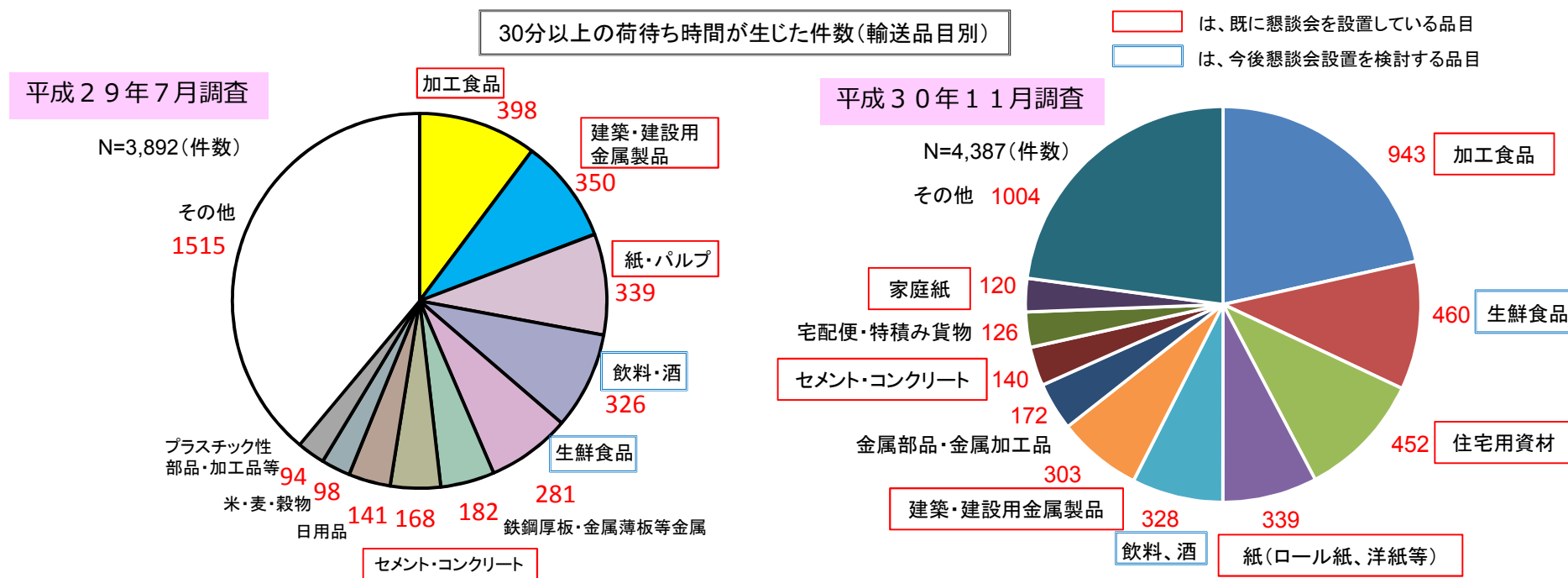
国土交通省 東北運輸局
宮城運輸支局
令和3年3月

トラック輸送における取引環境・長時間労働改善に向けたロードマップ



令和元年度の取組について

- 令和元年度地方協議会の取組として、各都道府県ごとに「加工食品、建設資材、紙・パルプ」の内から輸送分野を設定し、課題の整理及び課題に対する改善策の活用等の検討をすることとなった。
- 宮城県協議会では、日本製紙(株)石巻工場安藤委員にご協力いただき、「紙・パルプ」をテーマとした。
- 今回行われた視察は課題の発見や解決を目的とせず、あくまで好事例の紹介として令和2年1月に実施された。



日本製紙(株)石巻工場の概要

- 石巻工場での生産量は1日あたり約2400t。うち大部分(全体8割程度)はロール紙を生産している。
- 生産にあたっては月に1度、注文取りまとめがあり、日本製紙本社へ注文情報が集約され、各工場に分配される。(計画生産)
そのため、1年を通じて比較的荷物量の波動が緩やか。(石巻工場で配送できない分は別工場が生産するよう調整しているため)
- 令和2年9月より時間指定を導入、さらに工場側で倉庫担当者の昼休みをずらすことなどで対応できる体制を確保。混雑するのは10:00~11:00頃だがそれでも待機時間は基本的に1時間未満。
- 工場敷地内に鉄道(貨物)が乗り入れることができるようになっており、倉庫から直接配送可能。





- ・出荷依頼は南光運輸(利用運送事業者)へ一括で依頼し、協力会社へ発注される。
- ・割合は、震災前は鉄道:6トラック:3 フェリー・海上コンテナ:1 だったが震災後は鉄道が減少した分がトラックやフェリーに転換され、鉄道:4トラック:4 フェリー・海上コンテナ:2となった。
- ・南光運輸にて前日12:00で注文を締切り、17:00までに協力会社(実運送事業者)へ発注。計画生産のため、配送量はある程度予測がつくので、各社の保有車両、稼働可能車両に分配していく。
- ・週に1回程度、日本製紙と南光運輸で1日の配送量の目安などの打合せを実施。
- ・運送事業者も集めた協議を月1回程度で開催。
- ・年末年始やGW、お盆等の特殊な時期には南光運輸担当者が運送事業者を訪問し、各社の対応可能状況などの確認を行っている。



着荷主との調整・運賃等について

- コピー紙は倉庫業者への納品が多く、着時間指定や1日の受入台数の指定がある倉庫もあるが、日本製紙と南光運輸間で打合せを高頻度で実施することで指定等を細かく把握し、対応している。
- 平成29年の標準運送約款改正を受け、**運賃の値上げ**を南光運輸側から要求。また、トラックへの積込附带作業についての**料金を設定**した。
- ここ数年で業界全体（サプライチェーン全体）で**長時間労働等の改善に向けた動きが活発**になってきており、長距離運送については**一定の理解**がある。優先的に倉庫・工場に入れてもらっているため、待機時間について問題にはなっていない。
⇒中央協議会で待機時間が特に長いと指摘されたのは長距離運送ではなく、関東圏の地場事業者ではないだろうか。

